

学校マネジメント

目標達成マネジメントツールの一層の活用

[取組事例] 中津市立三保小学校、児童数105名、中津教育事務所管内

ポイント

「学校評価の4点セット」による短期の検証・改善

1. 取組の内容

学校評価 2学期の検証と改善【分掌会議】

重点目標	達成指標	重点的取組	到達イメージ	1学期の改善(8・20)	9・10月の取組指標	取組・達成状況と検証改善(10・17)	11月の取組指標	取組・達成状況(11・28)	検証	改善	12月の取組指標
活用力の向上	「活用力」を、中津市学力状況調査で昨年度より向上させる。	課題解決的な授業に取り組む。	自分の考えを理由や根拠とともに、友だちに伝えることができる。	○6割は書けるようになった。 【個人思考】 ①1日1回は自問タイム(自分の考えを書く時間)の設定。 ②週1回は、自分の意見を書くための手立てとして、図や表、ワークシートなどのツールを使う。 ③手立てを講じた授業のノート・ツールを持ちより学年部会で改善のための交流をする。 【集団思考】 ①1日1回は、意見交流の場の設定する。 ②月2回は、思考ツールを活用した話し合い(意見交流の場)を設定する。 ③学年部会で、思考ツールを活用した授業の写真をもとに授業の実践交流をする。	【個人思考】 ①1日1回は自問タイム(自分の考えを書く時間)の設定。 ②週1回は、自分の考えを書くための手立てとして、図や表、ワークシートなどのツールを使う。 ③手立てを講じた授業のノート・ツールを持ちより学年部会で改善のための交流をする。 【達成状況】 ①1日1回は、意見交流の場の設定する。 (9月69%→10月79%) ○ワークシートを使うことで、見直しもできる。 ②理由や根拠とともに自分の考えを発表する話型を指導する。 ③週1回は、思考ツールを活用した話し合い(意見交流の場)を設定する。 【集団思考の場面】 【取組・達成状況】 ①1日1回意見交流の場の設定(9月30%→10月70%) ②月2回は、思考ツールを使った授業(9月30%→10月70%) ③学年部会 交流実施	【個人思考】 ①1日1回は自問タイム(自分の考えを書く時間)の設定。 ②週1回ワークシートの準備・活用 100% ③学年部会 ・交流実施 ・時間内に書ける子どもが増えた ・ツールは有効 【達成状況】 ①1日1回は、意見交流の場の設定する。 ②理由や根拠とともに自分の考えを発表する話型を指導する。 ③週1回意見交流の場の設定 100% ④2型型の指導 100% ⑤週1回思考ツールを活用した授業 100% ⑥学年部会 ・交流実施 ・グループでも話し合いがスムーズにそれぞれに続く。 ・グループ学習がそれぞれの意見を出し合いだけで終わってしまわず、つなげて交流が難しい。 ・思考ツールを完成させることが目的になってしまふ。 【達成状況】 ・話し合いは活発になってきている。 ・正確にはグループ学習の様子が見えていない。	【個人思考】 ①1日1回は自問タイム(自分の考えを書く時間)の設定。 ②週1回は、自分の意見を書くための手立てとして、図や表、ワークシートなどのツールを使う。 ③手立てを講じた授業のノート・ツールを持ちより学年部会で改善のための交流をする。 【集団思考の場面】 ・グループの交流のイメージを児童に意識化させ、教師が交流の状況を把握するために、チェックシートの取り組みを追加。 【取組状況から】 個人思考の場面で自分の考えを書く自問タイムの実施や、週1回の手立てとしてのツールの使用は100%取り組み、全学年と定着してきた。 ・交流場面では、週1回のグループや全体での思考ツールの設定が100%実施できている。 ・教師の思考ツールへの理解も深まってきた。思考ツールの効果的な使用について学年部会でだけでなく、日常的に相談する場面が増えた。 【達成状況から】 個人思考で考えを書くことができる児童は4月の30%から11月の84%を達成することに割合が増えている。 ・集団思考での交流は、活発になってきているが、グループ交流は、児童の話の進め方の指導が必要。 ・グループで全員が出せているか、理由や根拠が言えているかの把握ができていないので、チェックが必要。	【個人思考】 ①1日1回は自問タイム(自分の考えを書く時間)の設定。 ②週1回は、自分の意見を書くための手立てとして、図や表、ワークシートなどのツールを使う。 ③手立てを講じた授業のノート・ツールを持ちより学年部会で改善のための交流をする。 【集団思考の場面】 ・グループの交流のイメージを児童に意識化させ、教師が交流の状況を把握するために、チェックシートの取り組みを追加して取り組む。 ・グループや全体の交流の仕方の工夫や困り学年部会で実践交流する。 ・グループでの交流での話の進め方を研究部会で整理し提案すること必要。	【個人思考】 ①1日1回は自問タイム(自分の考えを書く時間)の設定。 ②週1回は、自分の意見を書くための手立てとして、図や表、ワークシートなどのツールを使う。 ③手立てを講じた授業のノート・ツールを持ちより学年部会で改善のための交流をする。 【集団思考】 ①1日1回は、意見交流の場の設定する。 ②週1回は、思考ツールを活用した話し合い(意見交流の場)を設定する。 ③思考ツールを活用した授業で、意見の交流ができたか児童にチェックさせる。 ④学年部会で、思考ツールを活用した授業の写真をもとに授業の実践交流をする。		
体力の向上	持久力(シャトルランの記録)と筋力(上体起こし)を10%以上向上させる。	十分な運動量を確保する。	児童アンケート「進んで運動」「楽しく運動」できた児童80%以上に向上させる。	○体力測定の結果をもとにした各学年の課題の確認した中から、運動を考える。 ○体力測定の結果から、新たに筋力を向上させる運動を加える。 また、各行事と絡めて授業で、課題となる持久力と筋力を向上させる運動をする時間(5分)を確保し取り組む。	【取組状況】 ①体育の時間に、準備運動として持久力を高める運動(3分間走やサーキットなど)や筋力を向上させる運動(腕開伸・上体起こしなど)を時間取り組む。 ○運動中は実施ができたのは50%であったが、運動会後は実施できた。 ○持久力と筋力に特化して取組継続	【体育の授業で】 ①体育の時間に、準備運動で、3分間走(10回)をやる。(低学年ゆりかご20回)をやる。 【特別週間】 ・マツト・遊び箱週間 10/31~11/14	【取組状況】 ①体育の時間に準備運動で ・3分間走 100% ・腹筋 100% ・低学年ゆりかご 100% ②マツト・遊び箱週間実施 全学年実施 【達成状況】 ・腹筋は7%向上 ・シャトルランは12月実施	【指標の妥当性】 このまま継続すれば、シャトルランと上体起こしの10%向上を達成できると考え、継続。 【取組状況から】 ・準備運動に3分間走と筋力アップの運動は定着してきた。加えて、各学年工夫した運動を取り入れた。 【達成状況から】 ・腹筋は取組の効果が表れている。 今年度の全国平均と比べ、再度分析を実施。男子に課題が大きい。	・3分間走は継続してあげ、持久力と筋力アップを図る。 【特別週間】 ・寒稽古 12/5~12/14 ・持久走大会 12/15	【体育の授業で】 ①体育の時間に、準備運動で「3分間走+腹筋20回」(低学年ゆりかご20回)をやる。 【特別週間】 ・寒稽古 12/5~12/14 ・持久走大会 12/15	
自ら考えて行動する力の育成	児童アンケートで「相手の気持ちを考えた言葉づかいで話してきた」と答えた児童を60%以上に向上させる。	自分の行動を振り返る場を設ける。	授業中や職員室で「相手の気持ちを考えた言葉づかい」や、友だちの気持ちを考えた言葉づかいができる。	○授業中の言葉づかいについては改善が見られた。子どもたちも、よくなったことを実感している。 ○個人レベルでのふり返りが中心だったので、学級の取組と個人のふり返りをリンクさせる。 ○授業中の言葉づかいから日常的な言葉づかいへ「マナーから相手の気持ちへ」と移行させる取組をめざす。	【取組状況】 ①毎週金曜日「相手の気持ちを考えた言葉づかい」のふり返り(2学期で実施できた) ②学級の授業実践(10/21までに全学級で実施) ③担当が集約したが、各学級の取組交流はできなかった。 【達成状況】 ①相手の気持ちを考えた言葉づかいができていた児童 (63%) ○毎週ふり返ることで、子どもたちの意識や行動にもいい変化が見られる。 ●個人のふり返りとともに、学級全体のふり返りに工夫が必要。	①11月の生活目標 「言われてうれい言葉をつや、言われたくない言葉をつや」の達成に向けて、学級のみめあてを決める。 ②ふり返りのプリント(個人・学級)を担当が作成して、毎週金曜日に言葉づかいのふり返りをする。 ③プリントを担当に提出。 担当は集約して交流する。 【うれい言葉の虹プロジェクト】 児童会が提案。言われてうれい言葉やうれい言葉があったことを集める。 給食時間の放送で紹介した。	【取組状況】 ①学級のみめあてを決めて取組 100% ②金曜日ふり返りプリント実施 100% ③プリント提出 100% ④担当集約後掲示、交流 100% 【達成状況】 ①言われてうれい言葉が増えて、言われたくない言葉が減った学級 6学級 ②全校朝会で学級の取組状況と個人の代表ふり返りを発表 ③担当が毎週集約をして、担任と子どもたちの様子について相談、確認ができた。	【指標の妥当性】 「授業中の言葉づかいから日常的な言葉づかいへ」マナーから相手の気持ちへ」と意識は意向できてきたので、個人と学級の取組は継続。自分たちの現状をじっくり振り返る授業(道徳や特活)を追加した。 【取組状況から】 ①毎週金曜日、個人および学級のふり返りをする時間を持つ。 ②ふり返りを担当に提出する	・「相手の気持ちを考えた言葉づかい」に焦点化できてきているので、授業でじっくりと学級や自分の言葉づかいをふり返らせる時間を持つ。 【達成状況から】 ①週1回、ふり返りをするすることで、学級の達成度と個人の成長が見えるようになった。 ②意識して言葉を選ぶ様子が見られた。しかし、めあてを守れない子どももいる。更なる意識付けが必要。		

2. 取組についての評価等

(1) 主要主任を中心として主体的に学校課題解決に向けた取組の実施・評価・改善等を進めており、検証改善サイクルが確立されている